

福島県相馬市で、復興への決意新たに

JATAは10月23日と24日の両日、東北復興支援事業として第2回「JATAの道」プロジェクトを、福島県の相馬市新地町区間で実施しました。このプロジェクトは、2014年4月から震災発生10年後の2021年3月までの7年間にわたり、環境省が設定する東北地方太平洋沿岸地域のトレイルコースみちのく潮風トレイル全地区で、トレイル整備による復興支援活動を行うとともに、新しい東北観光の実現に向けて活動するものです。

新しい東北観光の実現へ

福島県相馬市新地町区間はみちのく潮風トレイルの南端に位置し、今回はその一部での散策と東日本大震災からの復興状況の視察を行いました。国内旅行推進委員会の委員長も務める戸川和良JATA



相馬市の立谷市長から戸川副会長へ感謝状が贈られました

副会長を団長に、首都圏と東北地区のJATA会員旅行会社19社の役員・社員、日本エコーリズム協会、JATA事務局、プレス関係者など54人が参加したほか、環境省からも自然環境局国立公園課の岡本光之課長をはじめ東北地方環境事務所の職員ら5人が同行しました。

初日の23日に新地町役場で行われた出発式では、同町の佐藤清孝副町長が新地町の被害状況や復興の現状を説明するとともに、「鹿狼山の観光を進めている。海・山・里と自然豊かな地域の魅力を体験いただきたい」とプロジェクトを歓迎。JATAの黒川恵運営役員は主催者を代表して、「観光は復興の礎であり、今回の活動を通じて素材を見つけ新しい東北観光の実現へ邁進



松川浦環境公園でNPO法人松川浦ふれあいサポートの皆さんと記念撮影

したい」と挨拶しました。

また、環境省東北地方環境事務所の堀内洋次長は、「計画されている700キロのトレイルのうち半分の370キロが開通しており、地元の理解と協力によって丁寧な道をつくっている」と語り、県内外の人が訪れて交流が深まることへの期待を示しました。

地元鹿狼山の会の杉平慶宏会長は、「登りやすく眺望も素晴らしい、四季を通じて楽しめる鹿狼山を全国の人に紹介してほしい」と参加者に訴えています。

復興の姿を見てもうっ

2日目の24日には、相馬市の千客万来館でJATA寄贈の相馬市案内パネルの除幕式が行われ、相馬市の立谷秀清市長らが出席しました。戸川副会長は、「旅行の原点は歩く旅。インバウンドもトレッキングは人気がある」と語り、「地域の皆様と力を合わせて新しい東北の観光を作るために



新地町・鹿狼山(標高430メートル)の頂上までの1.6kmをトレッキング。鹿狼・山の会の皆さんが案内してくれました

取り組んでいきたい」と決意を示しています。立谷市長は、「復興に取り組み姿が多くの人を呼び込んでおり、市民の協力と団結で復興してきた。その様子をみてもらえるように、交流人口を増やしていくことが課題だ」と観光復興への思いを語りました。



鹿狼山登山口で地元の人によるアルプホルン演奏の歓迎も

相馬市は、城下町風情を活かした街づくりとスポーツリズムによる交流人口の拡大を目指しています。今年4月にオープンした伝承鎮魂祈念館では、震災の記録映像と写真が展示されており、隣には震災で亡くなられた458人の慰霊碑が建立されています。トレイルの起点であり、終点の松川浦環境公園では、NPO法人松川浦ふれあいサポートの皆さんから歓迎のおもてなしを受けました。

ここは、津波により壊滅的な被害を受けましたが、ボランティアの人たちの力で整備されました。相馬市と新地町では、東日本大震災からの復興も進んでいるものの、まだ道半ばの段階であり、地元の人々の観光復興への思いや旅行会社に対する期待に触れ、参加者も観光を通じた東北復興への決意を新たにしました。